

切迫流産に於ては、血中 Estrogen 濃度の低いものはその予後が不良である様に思われる成績を得ました。

質問 (日本大) 吉田 孝雄

妊娠初期の血中 estriol の臨床的意義についてお教えねがいたい。

答弁 (新潟大) 川越慎之助

妊娠中上昇する estrogen については一般に言われている生理的意義についてしか現在のところ不明であり、妊娠初期に於ける  $E_3$  の意義についてはわかっていない。しかしながら、妊娠初期流産例では  $E_3$  の低値のものがことに予後不良と思われた。

質問 (昭和大) 中山 徹也

切迫流産の際の予後については従来は体内の progesterone. 或いは pregnandiol との関係が重要視されていましたが、これに加えて estrogen が何等かの意義をもつことは、胎盤が  $4\alpha$ -3 $\beta$ -HSDG のほかに aromatization enzyme 活性が強いことから推測されます。われわれは estrogen の方が progesterone に先行して低下する例で予後が悪いことの成績を得ておりますが、estrogen と平行して progesterone を測定されていたら、御教え下さい。

答弁 (新潟大) 川越慎之助

切迫流産例で progesterone と estrogen の同時測定を行なつた患者はいないので返答しかねる。

#### 45. Estrogen(内服・静脈内投与)による血中 Estrogen 値と血中 LH・FSH 値の関係

(昭和大)

上井 晴夫, 深井 善次, 中山 徹也

(丸山病院) 丸山 正義

(群馬大) 玉田 太朗

卵巣摘除後および卵巣摘除婦人に対するエストロゲン投与後のゴナドトロピンの変動をラジオイムノアッセイにより測定した。

##### 1. 卵巣摘除婦人のゴナドトロピンの変動

a) 卵胞期の手術群が黄体期手術群より術後10日~14日の間の血中 FSH, LH の増加傾向にある。

b) 黄体期手術後、ゴナドトロピンの上昇とは反対にプロゲステロン・エストロゲンが急速に減少し、術後10~20日たつても増加していないので、ゴナドトロピンと副腎との間には feed back がないものと思われる。

##### 2. 卵巣除去婦人に対するエストロゲン投与後のゴナ

ドトロピンの変動。

a) プレマリンの方がエストリオールよりゴナドトロピン抑制効果が強い。

b) エストラジオール静注により血中濃度が高い間は、ゴナドトロピンが抑制され、エストラジオール濃度が 300~500pg/ml 以下になるとゴナドトロピンことに LH の上昇が見られた。

エストロゲンの内服でも静注でもエストロゲンの血中濃度と、ゴナドトロピン濃度との間には逆相関が見られ、両者の血中濃度に関する限り現象的には、いずれの場合にも差が見られないことが明らかになり、今後本質的作用機序を解明したいと考える。

また黄体期の3日~5日目に子宮摘除し高温相の長さには対照と差を認めなかったが、血中プロゲステロンは対照より有意に減少し、人では子宮摘除により黄体機能が賦活されるメカニズムが存在しないことも明らかにした。

質問 (和歌山医大) 吉田 裕

(1) エストロゲンの連日投与後、抑制されていた、LH, FSH が投薬中止直後から上昇し始めるのでしょうか。私達のデータでは estradiol や Premarin の投与中止後も約2週は抑制が続いているようでした。この点につき御教唆下さい。

(2) Premarin による LH, FSH 抑制は Premarin 中のどの成分が作用したと考えられますか。

(3) Estradiol の長期連用経口投与は非常に著るしい LH, FSH の抑制効果を有していると私は自分のデータから考えているが、先生は如何にお考えでしょうか。

答弁 (昭和大) 上井 晴夫

1. 内服中止後1週間目の測定では、FSH, LH いずれも上昇がみられました。

連続的なアッセイの測定ではない為今回は測定上の問題があるのでスライドしませんでした。

2. Premarin の成分が明確でない為、不明といわざるをえません。

3. エストリオールの中枢抑制効果はヒトでは Premarin より弱いと考えます。

質問に対する答弁 (昭和大) 中山 徹也

premarin の御質問についてお答え致します。

premarin の内容については definite ではありません